

# 令和4年度 小金井市地域課題分析・評価シート（きたエリア）

## I. 地域課題と考えられる課題

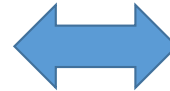
- ①コロナ禍が長引くなかで、地域活動やサービス利用を再開した人、控えたままの人と二極化している。【総】
- ②必要な情報が行き届いていない。【総・他】
- ③老いていくなかで生じる困りごとへの備えが十分にできていない。【総・他】
- ④スマホ、オンラインを使いこなせる人が少ない。【小・総・他】
- ⑤リーダーになれる人材が不足している。【他】

### 根拠情報

- [ニ]: ニーズ調査
- [小]: 小地域ケア会議（2層協）
- [個]: 個別地域ケア会議
- [総]: 総合相談
- [他]: その他（懇談会）

## II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- コロナ対策で外出控えをするうちに、フレイルが進んだ。（①）
- どこで情報を入手すればよいかわからない。（②、③、④）
- 対面以外のコミュニケーションの手段を持たない。（②、③、④）
- 自分から積極的に動くことは億劫だ。（①、②、③、④）
- 子どもには迷惑をかけたくないと、なかなか相談できずにいる。（③、④）
- 自らが活動の中心になるのは荷が重い。（⑤）



## 地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

- ・政府の対コロナ政策の変更もあってか、地域でイベントなど再開の動きが始まり、同時にシニアの間でも、少しずつ前の生活に戻したいという動きが見え始めている。
- ・紙媒体が十分に届けられていない、届けても内容が伝わりづらい、隅々まで目を通してもらえない、すぐに処分されるなどの課題がある。わかりやすい伝え方を工夫するほか、公民館、店頭などこれまで包括が使用していたルート以外での配布、公式LINEなど紙媒体以外の情報発信に取り組む必要がある。
- ・シニアの困りごとのなかでも、4年度は「お金に関する困りごと」について、各サロン、協議体で取り上げ、ヒアリングと啓発パンフの検討を実施。そのうち、今後も協力者として関わってもらえそうな人材を中心に、ホームタウンプロジェクトのワークショップに参加いただいた。ただ、意見交換では盛り上がりつつも、一人一人が具体的なアクションに移すところまでは至っていないのが現状。引き続き取り組む。
- ・リーダー不足は深刻。ピア・サロンの4年度末終了の報に触れた際、継続支援を申し出たが、後継者が育っていないから無理だと断られた。シニア世代から新たな人材を見つけるだけでなく、多世代での支え合いや、企業、商店、事業所との連携も必要であろう。

## III. 考えられる背景（環境要因）

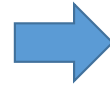
- コロナ対策をするうち、近隣との付き合いや親族間の行き来が途絶えたり、機会が減少したりしている。
- 感染症対策で、活動中止を継続する場所が多い。
- メディアからの情報の氾濫で、かえって正確な情報を入手しづらくなっている。情報の見極めが難しい。
- スマホやネットなどを気軽に継続して学べる場所がない。
- 地域の活動のリーダー同士が気軽に話し合える場がない。

※ **地域課題とは**：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

## 令和4年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（きたエリア）

### 活動目標

- ①Withコロナ時代にも安心して参加できる地域の活動について、周知や普及に努める。
- ②地域活動を担うリーダーが安心して活動を継続できるよう、リーダー同士の情報共有、連携を促す。
- ③シニア層に関心の高いテーマについて、多世代を対象に啓発活動を行う。



### 活動目標の達成状況（結果評価）

- ①応援ブック、マップの配布のほか、4年9月より公式LINEによる情報発信を開始。地域の活動について積極的な周知に努めた。
- ②圏域内のさくら体操自主グループリーダー連絡会を2層協議体として新設。全グループのサロン事業への登録、参加者に携帯いただく安心カードの共通様式作成、グループを超えたリーダー間の支え合いが可能となった。
- ③「桜町オレンジカフェ」にて、認知症家族支援、防災、終活、お金の管理等についてミニ講座を開催。「お金に関する困りごと」については、圏域内のサロンや協議体での聞き取り・意見交換なども実施。参加者がシニア中心であったため、今後は若い世代も参加しやすい企画を検討したい。

| 手段   | R3 | R4 | R5 | 結果  |
|--|----|----|----|---|
| 圏域内の地域活動を幅広く発掘し、情報提供を行う。（体操グループ、趣味活動、サロン、イベントなど）   | →  |    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館を中心に、新たに20以上の活動団体を発掘したほか、地域貢献に意欲的な企業、商店とつながった。</li> <li>・収集した情報は、今年度作成の応援マップに反映させた。マップからこぼれた情報は、適宜公式LINEから情報提供している。</li> </ul>   |
| 認知症、介護、終活、スマホなど、シニア層に関心のあるテーマについて、認知症支援推進員やさくら体操担当などとも連携し、講座やイベントで啓発する。また、地域のサロン・集まりなどでの講座開催を支援する。 | →  |    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「桜町オレンジカフェ」を年間11回開催。認知症の方にも楽しんでいただけるレクリエーション的なプログラムのほか、介護予防体操、シニア層に関心の高いテーマでのミニ講座を実施。</li> <li>・圏域内で活動するすべてのサロンに対し、リハビリ職による介護予防体操、健康をテーマとした講座の開催支援を行った。</li> </ul>  |
| 応援ブックを高齢者個人や商店、事業所、サロン、老人会などに幅広く配布する。  | →  |    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに250部ほどを配布。左記のほか、理事会より協力を得られたマンションにも配布。</li> <li>・イトヨーカドー武蔵小金井店、三井住友信託銀行武蔵小金井支店では常設コーナーを新たに設置。同様の取り組みが市内セブンイレブンとの間で進行中。</li> </ul>  |
| さくら体操自主グループはじめ、地域の自主的な活動の場がコロナ禍でも安心して継続できるよう、リーダーが互いの活動について気軽に共有、相談できるような連絡会を定期的開催。リーダー間の連携を促す。    | →  |    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・婦人会館自主グループの継続支援として4年4月、5月に2層協議体を開催したことを契機に、圏域内の自主グループリーダー連絡会を新たに2層協議体として立ち上げた。4年度は5月、11月の2回開催。</li> <li>・これにより、圏域内すべての自主グループのサロン事業への登録、参加者用安心カードの共通様式作成、グループを超えたリーダー同士の助け合いが可能となった。引き続き定期開催する。</li> </ul>   |
| きた包括LINE公式アカウントを開設し、広く情報発信を行うとともに、シニア層によるLINEをはじめとしたオンラインやスマホの活用を支援する。                             | →  |    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年9月14日（水）より、原則毎週水曜日正午に情報発信。市・包括からの情報に限らず、地域で活動する様々な団体の情報、地域のシニア層に必要なまたは有益と思われる情報を発信。</li> <li>・登録者数61名（5年3月28日現在）。</li> </ul>  |
| 上記以外にも、2層協議体や個別ケア会議の開催により、地域課題の把握や解決に努める。  | →  |    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別ケア会議は計3回実施。いずれも介護保険サービスでは充足できない、本人が希望する地域の活動への参加のサポートについて、関係者を交えて検討した。</li> <li>・4年4月より「梶野町ないませの会」を2層協議体に位置づけ。「梶野公園まつり」に参加し、みまもりあいアプリイベントを実施。アプリ普及に貢献するほか、町会や企業との連携を推進した。これ以外にも、協議体参加者間の連携により、新たな資源開発や互いの活動の支援が可能となった。緑小PTAなど、子育て世代との連携もスタートさせた。</li> </ul> |

※ **活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ **手段とは：**この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

# 令和5年度 小金井市地域課題分析・評価シート（きたエリア）

## I. 地域課題と考えられる課題

- ①地域活動が徐々に再開されているが、閉じこもったままの方もいる。またそもそも男性の参加が少ない状況が続いている。【総・小】
- ②シニアにとってわかりやすい形で情報が送られていない。また、届けられる層が限られている。【総・小・他】
- ③老いていくなかで生じる困りごとへの備えが十分にできていない。【総・小・他】
- ④スマホ、オンラインを使いこなせる人が少ない。【総・小・他】
- ⑤リーダーになれる人材が不足している。【小・他】

### 根拠情報

- [ニ]：ニーズ調査 [小]：小地域ケア会議（2層協議体）
- [個]：個別地域ケア会議 [総]：総合相談
- [他]：その他（懇談会）

## II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- 新たな活動を始めるきっかけがない。(①)
- 情報の入手先がわからない。新しい情報が入りにくい。(①、②、③、④)
- 対面以外のコミュニケーションが苦手である。スマホ等習熟に時間がかかっている。(②、③、④)
- 子どもに迷惑をかけたくない気持ちと自らのプライドから、なかなか周囲に相談できずにいる。(③)
- 自分から積極的に動くこと、新しいことに取り組むのは億劫だ。(①、②、③、④)
- 自らが活動の中心になるのは荷が重い。(⑤)

## 地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

## III. 考えられる背景（環境要因）

- コロナでいったん中断した地域住民主体の活動の再開が、支え手の高齢化や人材不足により、スムーズに進んでいない。
- もともと男性が中心となっている活動場所が少ない。
- 物価高や年金の受給額の減少などで、就労期間を延長せざるを得ないシニアが一定数存在する。シニアだから時間があるとは限らない。
- メディアからの情報の氾濫で、かえって正確な情報を入手しづらくなっている。情報の見極めが難しい。
- スマホやネットなどを気軽に継続して学べる場所がまだ少ない。
- 地域の活動のリーダー同士が気軽に話し合える場が少ない。

※ **地域課題とは**：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

## 令和5年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（きたエリア）

### 活動目標

- ①シニアやその子ども世代に情報を届けるルートを新たに開拓していく。
- ②地域活動を担うリーダーが安心して活動を継続できるよう、リーダー同士の情報共有、連携を促す。
- ③シニア層に関心の高いテーマについて、地域住民、公民館活動グループ、企業・商店等とも連携しながら、多世代を対象にした啓発活動を行う。
- ④地域活動の担い手不足を補うべく、主に2層協議体の場において、多世代や分野横断で支え合う仕組みを作っていく。



### 活動目標の達成状況（結果評価）

| 手段   | R4 | R5 | R6 | 結果 |
|--|----|----|----|----|
| 圏域内の地域活動を発掘し、情報提供を行う。特に今年度は男性にも参加しやすい活動の発掘に力を入れる。  |    |    |    |    |
| 認知症、介護、終活、お金の管理など、シニア層が知っておくべき事柄について、認知症カフェのほか、シニアやその子ども世代が気軽に参加できる講座を新たに開発し、啓発を進める。これにより子ども世代への包括の認知度も高めていく。地域のサロン等での講座開催も引き続き支援する。 |    |    |    |    |
| 応援ブック・マップを高年齢個人や商店、事業所、サロン、老人会などに幅広く配布する。また、包括からの新しい資料をその都度スムーズに配架してもらえよう、包括常設コーナーの設置に向けて、企業、商店等との連携を強化する。                           |    |    |    |    |
| シニア層からの新たな人材確保が難しいなか、地域の活動の継続のため、さくら体操自主グループに加え地域のサロンに対しても、主催者の連絡会（2層協議体）、勉強会開催等により支援する。社協との連携も強化する。                                 |    |    |    |    |
| 関係機関、企業、商店の協力を得て、きた包括LINE公式アカウントの一層の普及を目指す。市・包括からの情報だけでなく、シニアにとって役立つ地域の情報を幅広く伝えていく。  |    |    |    |    |
| 上記以外にも、2層協議体や個別ケア会議の開催により、地域課題の把握や解決に努める。  |    |    |    |    |

※ **活動目標とは**：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ **手段とは**：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。